

特集

ポストコロナ時代の 産婦人科医療

企画者のことば

末岡 浩*

新型コロナウイルス感染症によってもたらされた人々の生命への危機感は多大なものがありました。ワクチンの普及しか根本的な救済策が見いだせない医療の限界に気付かされたことも、今後の医療への取り組みに大きな影響を及ぼしたことでしょう。それ以外にも安心安全であると信じてきたわれわれの社会に対する信頼感を覆す事態に直面し、これまで以上に日頃から想定しておかなくてはならなかった備えの重要性に現実的な関心が深まったことは近年になかったことです。これを契機に社会の構造変化が見直され、新たな生活様式が求められています。急激な対応を迫られる変化にこれまでとはまったく異なる戸惑いもあるなか、議論を重ねて積み上げてきた制度や施策に大きな命題を突き付けられ、規制緩和や従来の仕組みの変更が必至の状況になったことも事実です。

今回の特集では、産婦人科診療の主体となる

「産婦人科の実際」の読者が今後どのような New normal を実現していかなくてはならないかについて、各分野の論客に既成概念に捉われずに自由に論陣を張って議論を展開していただくことにいたしました。主な命題として AI が医療にも導入される時代のなかで、なお海外からは大きく水をあけられているともいえる医療の IT 化をはじめ、今こそ大胆な変革は避けることのできないテーマを取り上げました。すでに目前に迫った 5G 時代には、さらに大きなイノベーションが必要という意見は少なくありません。考えていかなくてはならない課題と現実を見据えて、これからのわれわれの医療が向かう方向への提案をいただきましたので、この特集が 20 年先の産婦人科医療をイメージして未来の先導者の知恵となるべく活用され、読者の一人一人が新たな方向性を見出して未来に向かって進んでいただければ幸いです。

* Kou Sueoka 慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター